



宮崎海岸の生きものたち















ハマヒルガオ







イシカワシラウオ





ッやざきかいがん **宮崎海岸の生きものたち(20**22 年度版)

 こくと こうつうしょう
 きゅうしゅう ちょうせい ひきょく
 みやざき か せんこくどう じょむしょ

 国土交通省
 九 州 地方整備局
 宮崎河川国道事務所

住所: 〒880-8523 宮崎県宮崎市大工2丁目39

TEL: 0985-24-8221 FAX: 0985-24-8350

URL: https://www.gsr.mlit.go.jp/miyazaki/

mail: miyazaki@qsr.mlit.go.jp



みやざきかいがんしゅっちょうじょ 宮崎海岸出張所

TEL: 0985-69-3692 FAX: 0985-62-7051

はじめに

みやざきかいがん たしゅたょう せいかつ 宮崎海岸では、多種多様な生きものたちが生活しています。

宮崎河川国道事務所では、宮崎海岸の環境を守る取り組みや生きものの ちょうさ ながねんつづ 調査などを長年続けてきました。その成果をこのハンドブックで紹介する ことによって、自然豊かな宮崎海岸にみなさんが親しみ、一緒に環境を守っていくための手助けになればと願っています。

もくじ

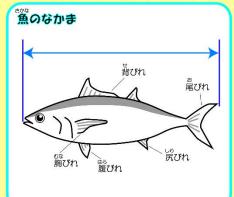
はじめに	1
生きものの体	2
宮崎海岸ってどんなところ?	3
宮崎海岸の生きものたち	9
・魚介類のなかま	13
・付着生物のなかま	17
・鳥類のなかま	19
・昆虫類のなかま	23
・爬虫類のなかま	24
・植物のなかま	25
·×=	27
+/114	20

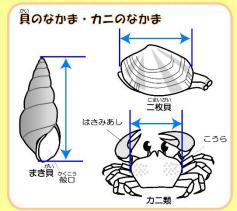
1

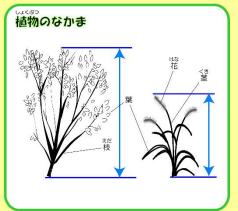
生きものの体

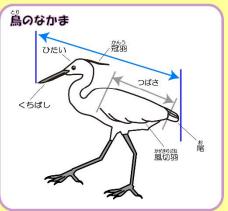
※この図鑑で示している体の大きさは、

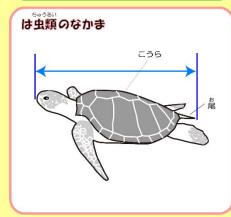
べって示す部分の最大の大きさをはかったものです。

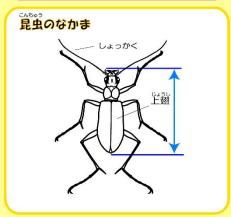












みやざきかいがん 宮崎海岸ってどんなところ?

みやざきかいがん ちゃざきこう ひと せがわ あいだ すなはまかいがん やく 「宮崎海岸」とは、宮崎港と一ツ瀬川の間にある砂浜海岸(約10km)のことを言います。宮崎河川国道事務所は、一ツ葉有料道路シーガイアイン あきん いしざきがわかこう すみよしかいがん いしざきがわかこう き どわら ターチェンジ付近から石崎川河口までの住吉海岸と、石崎川河口から佐土原

くなること)が進み、海岸の近くで生活する人々の安全が心配されています。 みやさきかせんこくどうじむしょ かいがん ちか せいかつ ひとびと あんぜん このため、宮崎河川国道事務所では、海岸の近くで生活する人々の安全・ あんしん しぜんゆた こくと まも めざ みゃざきかいかん しんしょくたいさく すす 安心と自然豊かな国土を守ることを目指し、「宮崎海岸の侵食対策」を進 めています。









- かってのびる堤防で砂が流されるのを止める)といった方法も合わせて行っています。
- ・侵食対策についての詳しい情報は**宮崎河川国道事務所の WEB サイト**をごらんください。 https://www.gsr.mlit.go.jp/miyazaki/sskondan/index.html

宮崎海岸と私 たちのくらしとの関わり

◆漁場としての利用

まかせききかいがんしゅうへん うみ き せんふなびきあみ ちょう かんそこ 宮崎海岸 周 辺の海は、機船船曳網によるチリメン漁(バッチ網漁)、小型底できあみ いっぽんづり ちょしょう きょしょう とぬ ゆた うみ きち めぐ 曳網、一本釣りなどの漁場となっており、季節を通して豊かな海の幸に恵まれています。また、以前は海岸で地引網などの漁も行われていました。



ナリメン漁(ちいめんじゃこなどを養る)



いっぽん づ 一本釣り(カツオなどを獲る)

◆レジャー等の利用



サーフィン



きかなっ

5



パラグライダー

◆祭いなど歴史・文化的な風習の場としての利用

宮崎県には天孫降臨など神話・伝説が各地にあり、海岸も神話の舞台として 世間である。 はしょ 重要な場所であったと言われています。

宮崎海岸では、地域の祭りで御神輿が浜辺でお清めをするなど、古くから海岸 とんせい はしょ たいせつ あうしゅう げんだい う つ かいがん を神聖な場所として大切にしてきた風習が現代にも受け継がれています。

新名爪八幡宮夏祭り(浜下り神事)住吉地区(動物園東)





住告地区では貿易りの漢下り神事が海岸侵後によって一時途絶えていましたが、近年の砂浜の回復により、2017年7月に開開されました!

(海岸よろず相談所だより No.68 より)

情報提供:住吉地区連合会押川会長 写真提供:新名爪八幡宮総代後藤隆一氏

◆海岸近くの集落を守る機能

まけい まつばん たいぼう やくわり は 自然の堤防の役割を果たしています。
つの高い地形と松林などの植生は、海岸近くの人の住む土地を波や風、塩害から守る
しばん ていぼう やくわり は 自然の堤防の役割を果たしています。

砂浜と海岸林のようす





6

海岸沿いの広大な松林は、昔から 5い度 ひとびときょうゆう 地域の人々共有の林として大切に してきました。

現在でもその多くが「保安林」に指定され、植林などを行い、 等の育てられています。

みやざきかいがん しぜんかんきょう とくちょう 宮崎海岸の自然環境の特徴

◆貴重な生きものの産卵・子育ての場

をはきかいがん はくさせいしょう うつく すなはまかいがん さからきけんてんねん きねんぶつ 宮崎海岸は、白砂青松の美しい砂浜海岸です。宮崎県天然記念物であるアカウミガメの上陸・産卵や、野生絶滅の危険性が高いコアジサシの集団営巣が見られるなど、自然豊かな海岸環境が残されています。

アカウミガメ





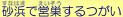


砂浜に上陸した母ガメ

上陸•產卵跡

コアジサシ







巣に餌を運ぶようす



産まれた卵

◆波や風の強い海岸ならではの生態系

まできまいがん かんきょう なみ かぜ つよ すなはま 宮崎海岸の環境は波や風が強く、砂浜や海の中の地形は常に変動します。海岸にすむ生きものたちは厳しい環境に耐えられるよう工夫して暮らしています。

7



園や乾燥に耐えられるように、根を深く張 り、背を低く、葉を厚くしている植物





一般に流されないように、素草く砂に潜る ことのできる波打ち際の生きものたち

◆魚などのえさ場・赤ちゃんのゆりかご

海岸の波打ち際(なぎさ線)から浅い沿岸では、魚の稚魚(赤ちゃん)やアミ 類など、小さな生きものがたくさんみられます。これらは大きな魚などの餌となるので、その魚を食べる私たちにとっても大切な恵みと言えます。

おやざきかいがん。 宮崎海岸で育つ赤ちゃんたち







宮崎海岸では、魚やエビ、イカなど多種多様な生きものの子どもがみられます。 鷺い砂漠は、光や栄養が 豊富で外蔵の少ない赤ちゃんのゆりかご。 特産品のちりめんじゃこの中にも入っているかも?

◆宮崎海岸の自然を守る取り組み

宮崎海岸では、ビーチクリーン (海岸清掃) や、ウミガメやコアジサシなど貴重 な生きものの保全活動など、海岸の自然環境を守る取り組みが毎年行われています。それらの取り組みを支えているのはたくさんの市民の皆さんです。

かがん しんしょくだいさくしぎょう まできまりん ぎょうせい かくぶんや また、海岸の侵食対策事業については、国土交通省や宮崎県の行政、各分野 で専門家だけでなく、市民や漁業者の皆さんも「市民談義所」などで集まり、 ー緒に考えながら事業を進めています。

ウミガメが産卵できる美しい海岸のために(石崎浜ビーチケリーン)

『宮崎の海岸をみんなで美しくする会』は、アカウミガメが産卵のため上陸する時に 障害となるゴミや洗木を撤去するビーチクリーン(海岸清掃)を毎年開催しています。 参加者は多い時で約500人! 地域のみなさんが協力して海岸をきれいにしています。







g崎海岸の生きものたちがくらしている環境

avecte かいがん すなはま なみら きわ さり 宮崎海岸には砂浜、波打ち際、海の中といった色々な環境があり、それ ぞれの環境に合わせて多種多様な生きものたちが暮らしています。

生きものたちは、一生を海岸で過ごすもの、子供を産む時だけ訪れるもの、 他の生きものを追いかけて食べるものなど様々です。また、季節によって見 られる種類も変わります。

下の図は、宮崎海岸の姿を横から見たものです。陸から海にかけての環境と 生きものの関わりを見てみましょう。

かいひんしょくせいたい

はま浜 砂

ぎわ ちょうかんたい※ 波打ち際(潮間帯

あさせ

海の中

おきあい > 沖合



満潮でも水に浸からない高い場 所には植物が生えています。 また、その後ろには海岸林があ り、私たちの住居や農地を波や 砂から守ってくれています。



砂浜にはカニや昆虫など がもぐってくらしていま やコアジサシの産卵場所 にもなっています。



波打ち際は浅くなってい て、光と栄養が豊富です。ります す。また、アカウミガメ エビや貝のなかま、魚の 赤ちゃんが育つゆりかこ



川の河口の近くなど ではワンド(入江状 の凹んだ地形) もあ



波の力で海岸が削れる のを防ぐため、プロッ クで保護している場所 もあります



海の中の浅いところはちりめん じゃこやアミなど小さな生きも のがたくさんいます。それを食 べる大きな魚もやってきます。



海の沖合には黒潮が流れていま す。宮崎海岸で育った魚やアカ ウミガメも海流に乗って違いと ころまで回遊します。



みやざきかいがん 宮崎海岸の生きものたち

このハンドブックでは、宮崎海岸にくらす生きものの中から、代表的なもの、特徴的なものを選び 67種類を掲載しました。次のページからそれぞれの特徴や、海岸のどんな場所(砂浜・波打ち際・海の中)にいるかを紹介しています。

宮崎海岸には、この他にもたくさんの生きものが暮らしています。生きものを見つけたら、ぜひ写真を撮ったり種類を調べたりしてみましょう!

※宮崎海岸では工事中の場所、砂浜が削れて崖になっているところなど、危険なましまましま。そういった場所は絶対に近づかないようにして、できれば大人の人と一緒に、安全に海岸探検を楽しんでくださいね。

※特に、アカウミガメやコアジサシなどの生きものが砂浜で産卵や子育でする 時期には、踏み荒らさないよう気を付けて優しく見守りましょう。

このハンドブックに掲載した生きものたち

No.	分類	種名	ページ
1	魚介類	カタクチイワシ	13
2	魚介類	サッパ	13
3	魚介類	シロギス	13
4	魚介類	オオニベ	13
5	魚介類	ネズミゴチ	13
6	魚介類	ヘラヌメリ	13
7	魚介類	イシカワシラウオ	14
8	魚介類	ホウボウ	14
9	魚介類	クロウシノシタ	14
10	魚介類	ヒラメ	14
11	魚介類	ツバクロエイ	14
12	魚介類	コモンサカタザメ	14
13	魚介類	ヒメスナホリムシ	15
14	魚介類	サガミハマアミ	15
15	魚介類	スナガニ	15
16	魚介類	キンセンガニ	15
17	魚介類	ハマスナホリガニ	15
18	魚介類	ジンドウイカ	15
19	魚介類	ツメタガイ	16
20	魚介類	キサゴ	16
21	魚介類	ヒメバカガイ	16
22	魚介類	フジノハナガイ	16
23	魚介類	キュウシュウナミノコガイ	16
24	魚介類	コタマガイ	16

No.	分類	種名	ページ
25	付着生物	イボニシ	17
26	付着生物	ベッコウガサガイ	17
27	付着生物	キクノハナガイ	17
28	付着生物	イワガキ	17
29	付着生物	ケガキ	17
30	付着生物	カメノテ	17
31	付着生物	イワフジツボ	18
32	付着生物	アオサのなかま	18
33	付着生物	イソダンツウ	18
34	付着生物	カイノリ	18
35	鳥類	ヒドリガモ	19
36	鳥類	マガモ	19
37	鳥類	カルガモ	19
38	鳥類	カワウ	19
39	鳥類	アオサギ	19
40	鳥類	コサギ	19
41	鳥類	シロチドリ	20
42	鳥類	チュウシャクシギ	20
43	鳥類	キアシシギ	20
44	鳥類	ミユビシギ	20
45	鳥類	トウネン	20
46	鳥類	セグロカモメ	20
47	鳥類	コアジサシ	21.22
48	鳥類	アジサシ	21

No.	分類	種名	ページ
49	鳥類	ミサゴ	21
50	鳥類	トビ	21
51	鳥類	ハヤブサ	21
52	鳥類	イソヒヨドリ	21
53	昆虫類	ハマスズ	23
54	昆虫類	ハルゼミ	23
55	昆虫類	ハマベツチカメムシ	23
56	昆虫類	キバナガミズギワゴミムシ	23
57	昆虫類	クロズハマベゴミムシダマシ	23
58	昆虫類	キヌゲハキリバチ	23
59	は虫類	アカウミガメ	24
60	植物	ハマエンドウ	25
61	植物	ハマヒルガオ	25
62	植物	ハマゴウ	25
63	植物	コウボウムギ	25
64	植物	オニシバ	25
65	植物	ハマユウ	25
66	植物	オオキンケイギク	26
67	植物	コマツヨイグサ	26



:海の中にいるもの



:波打ち際にいるもの



:砂浜にいるもの

カタクチイワシ

ニシン

「カタクチイワシ科 (大きさ 10cm)



治岸から沖合の海面を群れで泳ぐ。 2年程度で死んでしまうが、ヒラメなど 大きな魚の大切な館になっている。

サッパ



____ ニシン首ニシン科 (大きさ 15cm)



沿岸の海が浅いところや川に遊いところ を泳ぎ回っている。5~6月ごろ、岸辺 の凳いところで離躺する。

イシカワシラウオ



サケ賢シラウオ科 (大きさ 8cm)



がいます。 外洋に面する沿岸にすみ、大きくなる につれ弾に出て行く。 **鄭を産む時、大きな群れをつくる。**

ホウボウ



カサゴii ホウボウ科 (大きさ 40cm)



深い海の砂底にすみ、腹びれを足のよう にして影くことができる。成魚の胸びれ は青くきれい。エビ類などを食べる。

シロギス



スズキ賢キス科 (大きさ 30cm)



砂浜の岩礁まわりや地形が変化している 所にすんでいる。音などに敬感で、危険 を感じると砂の中に隠れる。

オオニベ

水産庁:希少種 海



水深 150m より浅いところにすみ魚など を食べる。 宮崎では 1m 以上の巨大なも のもいる。最近は数が少なくなっている

クロウシノシタ



カレイ首ウシノシタ科 (大きさ 40cm)



沿岸の海が浅いところや底が砂や泥に なっているところにすんでいる。5~9 月に頭を産む。食べるとおいしい。



カレイ首ヒラメ科 (大きさ 80cm)



が
か学っが

が当っが

が当った

がいて、

いて、

がいて、

いて、

がいて、

いて、

いて 大きくなると魚などを食べる。

ネズミゴチ



スズキ首ネズッポ科 (大きさ 20cm)



海底が砂の潮間帯から 20cm くらい までのところにすんでいる。 同じ科の中で一番おいしい。

ヘラヌメリ



スズキin ネズッポ科 (大きさ 15cm)



20mより浅い底が砂のところにすんで いる。

宮崎県では普通に見られる。 この仲間は表面がぬるぬるしている。

ツバクロエイ



エイ首ツバクロエイ科 (大きさ 100cm)



沿岸の海底が砂のところにすむ。体が横 に広がった形で、尾は短く、しま模様で、 **量がある。エビ類や魚などを食べる。**

コモンサカタザメ 環:NT (海)

サカタザメ首サカタザメ科 (大きさ 70cm)



治岸の海底が砂のところにすみ、砂の 中に埋もれて生活する。メスは、腕を 体の中でかえして子供を産む。

環境省のレッドリストのカテゴリー NT:準絶滅危惧 DD:情報不足

ヒメスナホリムシ



ワラジムシ首スナホリムシ科 (大きさ 0.5cm)



| 競打ち際にすみ、ダンゴムシのような形。 すばやく一の中へ着るので、たくさん いる割には見つけにくい。

サガミハマアミ





ただれた際や浅い砂地の海にすむ小さな エビのなかま。葉まり群れになることも ある。魚などの大切な餌になっている

ツメタガイ



新生腹足目タマガイ科 (大きさ 5cm)



潮間帯から浅い海の砂地にすむ、丸 い形の巻貝。肉食性で他の貝類の殻 に穴をあけて食べてしまう。

キサゴ



古腹足目ニシキウズガイ科 (大きさ 2cm)



対している。 対している。 対している。 対している。 対している。 対している。 対している。 対している。 対している。 がしている。 でいる。 でい がきれいで、藁はピンク色が多い。

スナガニ



エビ

「

「

」

「

大きさ 3cm)



すがはま すがな かっ 砂浜に巣穴をほってすみ、主に夜に活 動する。目が大きくとても足が速く、 人が近づくと静の上を走って逃げる。

キンセンガニ

宮:NT 渡

エビ

| キンセンガニ科 (大きさ 4cm)



まょうかんでい 潮間帯から潮下帯にかけての砂浜に すみ、足は泳ぎやすい平たい形。 小型の甲殻類や貝類を食べる。

ヒメバカガイ



マルスダレガイ賢バカガイ科 (大きさ 3cm)



浅い海の砂地にすむ二枚貝で、貝殻 はうす茶~紫色で光沢がある。宮崎 海岸では設定とさん見られる。

フジノハナガイ 環:NT、県:NT 渡



マルスダレガイ賢フジノハナガイ科 (大きさ 1.5cm)



波打ち際の砂地にすむ二枚貝。貝殻 は白っぽくうすい。砂に鱶るスピー ドがとても遠い。

ハマスナホリガニ



エビ (大きさ 1 cm)



外洋に節した潮間帯の砂浜にすんでいる。 波にのって砂の上に出ては、淡が引く時 長い腕で砂をほりすばやく潜る。

ジンドウイカ



ッツイカ目ヤリイカ科 (大きさ 12cm)



スルがか 沿岸にすみ、イカの仲間では珍しく 珍はは、たまに、うっかできまかいが、 砂浜に卵を産む。宮崎海岸でも写真 のように小さな子どもが覚られる。

キュウシュウナミノコガイ 環:NT 被



マルスダレガイ首フジノハナガイ科 (大きさ 0.6cm)



波打ち際の砂地にすむとても小さな 二枚貝。殻は薄く、白っぽい。九州 で初めて見つかったのが名前の首来。

コタマガイ



マルスダレガイ賢マルスダレガイ科 (大きさ 7cm)



浅い海の砂地にすむ大きな二枚貝。 ハマグリに形や模様が少し似ていて、 代用品として売られることがある。

付着生物

ちゃく せい ぶつ す着生物のなかま る生きものたちのことで、質やゴカイ、海

があった。 付着生物とは、岩などにくっついて生活す 髪などさまざま。 食用になるものもいるよ。







砂:砂浜にいるもの

イボニシ



新生腹足目アッキガイ科 (大きさ 3cm)



^{ちょうかんだい} いわっしょうめん 潮間帯の岩の表面やすき間にすんでいる。 カキなど他の質に穴を空けて食べる。 夏の初めごろに、集団で卵を産む。

ベッコウガサガイ



カサガイ曽ヨメガカサ科 (大きさ 5cm)



潮間帯の岩礁の上で海藻を食べてくらし ている。貝殻は笠のような形でべっ草も ようがある。食用になる。

イワフジツボ



フジツボ曽イワフジツボ科 (大きさ 1cm)



内湾から外洋にかけての、潮間帯の 上あたりの岩盤の上にすんでいる。 種は水中のプランクトン。

アオサのなかま(植物) 🕸

アオサ首アオサ科 (大きさ 5cm)



岩の表面などにくっついている。 一般である。 波当たりが少し強い場所に多く、 大きくなると切れて流れやすくなる。

キクノハナガイ



ばんゆうはいもく 汎有肺目カラマツガイ科 (大きさ 2cm)



ままうかんだい がんしょう 潮間帯の岩礁の上で、潮が引いた後に ・ 動き回っている。アオノリなどの海藻 を食べる。

イワガキ



ウグイスガイ曽イタボガキ科 (大きさ 10cm)



外洋の岩場などに見られる。 マガキやケガキより大きくなる。 宮崎県ではよく食べられる。

イソダンツウ(植物)



スギノリ首イソモッカ科 (大きさ 2cm)



ままずかをい うき かけくらいにある岩陰一面に、 芝生のようにたくさん生える。 小型の溢えで負むたない。

カイ/リ(植物)



スギノリ首スギノリ科 (大きさ 3cm)



類間帯の下にある岩かげに、マットの ように生えることが多い。あまり大きく ならず、首立たない。

ケガキ



ウグイスガイ賢イタボガキ科 (大きさ 2cm)



岩にくっついている。小さいときは 殻の周りが紫色になり、管の形をした でっぱりがトゲのようになる。

カメノテ



フジツボ首ミョウガガイ科 (大きさ 4cm)



*変がカメの手に似る。 瀬が満ちると水中 に脚を出し顔を食べる。冷角になる。

ふちゃくせいぶつ す 付着生物が棲んでいるところ



コンクリート護岸



波消しブロック

付着生物は、岩場のほか、 コンクリート護岸や波消し ブロックの表面にもくっつ いて生活しているよ。 波打ち際は大きな波がたく さん来たり、ブロックのす き間は流れが速くて危険! 近づく時は必ず大人と一緒 に行動しよう。

夏島 :南の方からやってきて子育てしながら夏を過ごす鳥

島は訪れる時期や生活のしかたによって、夏鳥・

______ チドリ首チドリ科 (大きさ 17cm)

海岸近くの砂や小石がある砂礫地や砂浜、

運立地などにくぼみつくり、巣を作って

海の中にいるもの

ヒドリガモ



カモ育カモ科 (大きさ 50cm)



競の静かな海岸にたくさん見られること がある。海岸では海藻類をよく食べる。 河川や潜でも見られる。

マガモ



カモ首カモ科 (大きさ 59cm)



量は海岸などで休憩していることが多い。 食べる。

シロチドリ

環·宮:VU W 留鳥



チュウシャクシギ



鳥

類

チドリ首シギ科 (大きさ 42cm)



まがったくちばし、長い首や足を持つ 大型のシギ。くちばしを記の中へ入れ、 甲殻類や昆虫を食べる。

カルガモ



カモ首カモ科 (大きさ 60cm)



オス、メスとも同じ色をしている。 草むらや茂みの地上に巣をつくり、手に 植物を食べる。

カワウ



ペリカン首ウ科 (大きさ 80cm)



全身真っ黒。海岸などの水辺にすみ、 川や海に飛び込んで堂に魚を食べる。 時々大きな群れになることがある。

キアシシギ

予覧でをする。



チドリ賢シギ科 (大きさ 25cm)



った。 干潟や砂浜によく見られる。 主端では、ゴカイやコメッキガニ などスナガニ類を食べる。

小型で、くちばしはまっすぐで短い。

科の仲間では小さい種類。

こ。 泥の表面をつつき、 餌を食べる。シギ

ミユビシギ



チドリ首シギ科 (大きさ 20cm)



多くは群れで生活する。競打ち際で、 一般に合わせて、忙しく髭がるように 走っている。冬によく覚られる。

アオサギ



コウノトリ首サギ科 (大きさ 95cm)



体が大きく蕾みがかった灰色をしている。 **岸辺や杭などにとまってじっとしたり 溪瀬をゆっくり歩き、魚を捕まえる。**

コサギ



コウノトリ首サギ科 (大きさ 60cm)



全身真っ白で、目の周りと足が黄色。 魚やカエルなどを食べる。コサギより体 が大きいダイサギ・チュウサギもいる。

トウネン









セグロカモメ



くちばしは黄色で先が赤い。海岸の崖や 砂浜などに海草・羽毛などを敷いて巣を つくる。

環境省·宮崎県のレッドリストのカテゴリー VU: 絶滅危惧Ⅱ類

19

:海の中にいるもの

#や ざき かい かん 環境省: 絶滅危惧 I 類 (VU) 宮崎県 : 絶滅危惧 I B 類 (EN) 条例: 指定希少野生動

まいさき まいさん まいとい まっとり まっ まっとろ 宮崎海岸には、毎年4月末~7月末頃、コアジサシが夏鳥としてやっ てきます。そして砂浜で集団で子育てをし、秋になると南半球などに 移動して冬を越し、次の年にまた日本に帰ってきます。小さい体で日 本と世界を毎年旅しているスゴイ鳥なのです。

ですがコアジサシは近年全国的に数が減っています。その原因は、繁 巣立つ割合が低下していることなど。コアジサシが安心して子育てで きる自然豊かな宮崎海岸をこれからも守っていくことが大切です。



コアジサシの繁殖地

餌を捕らえたようす



コアジサシの卵



巣に館を運ぶようす

砂地や礫地に集団を作って繁殖し、人などが近づくと集団で追い払います。 30年ほど前には県内各地で繁殖していましたが、最近は繁殖地が限られ、 群れの大きさも小さくなっています。宮崎海岸は数少ない貴重な繁殖場です。

コアジサシ環: VU、宮: EN 🐠 🚇

チドリ首カモメ科 (大きさ 20cm)



海岸・河川・望立地などの砂や礫の上に がでする。 「卵を産みひなを養てる。 水の中にダイビ ングして、小魚などを捕まえる。

アジサシ

とのして、「はんいでは、いとう」 鳥は広い範囲を移動することができ、宮崎海岸でも、砂浜だけでなく、河川や海岸沿いの林など

でも鳥を見ることができる。食事・休息・繁殖など目的によって色々な環境を利用しているよ。



チドリ首カモメ科 (大きさ 35cm)

夏島 :南の方からやってきて子育てしながら夏を過ごす鳥



海岸などで地上に浅いくぼみをつくり、 草などを巣の材料にして集団で繁殖する。 主に魚を食べる。コアジサシより大きい

ミサゴ

鳥



HE



タカ首タカ科 (大きさ 60cm)



子育て中はつがいで生活し、それ以外は 群れで生活する。若い個体は年中群れで 生活することが多い。

タカ首タカ科 (大きさ 60cm)



岩棚や木の上にすみ、宮崎県では海沿い を中心に見られる。冬を越す個体の数は 増えているが県内での繁殖は見られない。

ハヤスサ 環: VU、宮: NT 🐠 🕮





タカ賢ハヤブサ科 (大きさ 45cm)



鳥の中でも特に遠く飛ぶことができ、他 の鳥を空中でおそう。なわばりをもって 生活し、崖の岩棚などに巣を作る。

イソヒヨドリ





字育てしていない時は1羽で生活する。 尾や羽をゆっくりと上下に動かしながら、 首分のなわばりの中を勤き削る。

昆

品虫類のなかま





ハマスズ 宮:NT



バッタ首ヒバリモドキ科 (大きさ 2cm)



海岸や河原の砂地にすむ。 「ビーィ・ビーィ」と鳴き、ときどき 「チョン・チョン」と鳴く。

ハルゼミ



カメムシ首セミ科 (大きさ 3cm)



松林に多く、合唱する。 「ギーギーギー」や「ムゼームゼー」と 聞こえる鳴き方をする。

ハマベツチカメムシ



カメムシ首ツチカメムシ科 (大きさ 0.4cm)



砂の中で生活し、植物の根元付近に多く いる。体の様に受い毛がたくさんある。

キバナガミズギワゴミムシ 🐠

コウチュウ質オサムシ科 (大きさ 4cm)



海と川、陸と海との境目などに見られる。 肉食である。動きが速く、街灯にも飛来 する。

クロズハマベゴミムシダマシ

コウチュウ目ゴミムシダマシ科 (大きさ 0.5cm)



砂浜に打ち上げられた魚の死体、海藻や 流术の下などに見られる。 やや淵った砂から見つかることが多い。

キヌゲハキリバチ



ハチ曽ハキリバチ科 (大きさ 1cm)



砂地に緩やかに傾いた穴を掘り、 その先に巣をつくる。 ハマゴウという植物の花粉を運ぶ。

他虫類のなかま

宮崎海岸のアカウミガメ 宮崎県: 準絶滅危惧 (NT)

avectativity まっ 宮崎海岸では4月末~8月末にかけ、アカウミガメが産卵のために、 である。 すなはまで での砂浜へ上がってきます。砂浜の水に浸からない少し高いところに ち際まで歩き、海に泳ぎ出します。そして太平洋を広く回遊しながら ばいちょう じゅみょう 成長し、寿命は80年くらいと言われています。

アカウミガメは世界的に数が減っています。その原因は、産卵条件の grade けんしょう じんこうてき あか 良い砂浜の減少、人工的な灯りやそう音の影響、ゴミを餌と間違えて しまうなど色々あります。宮崎県はアカウミガメが産卵できる砂浜の 長さが日本一で、宮崎海岸のような広くて緩やかな砂浜は、アカウミ う うつく しず すなはま まち ひつよう を産めるよう、美しく静かな砂浜を守っていくことが必要です。



産卵したアカウミガメ



さんらん 産卵のためにあがった跡

変数は で、1回に100個前後の卵を産む。宮崎県は産卵地として有名だが、 が流れて砂浜が小さくなることにより、 産卵の場所が減ってきている ことが心配されている。 単羅の大きさは、大きいもので1mになる。

宮崎県では、アカウミガメの保護を積極的にがんばっているよ!

宮崎県のレッドリストのカテゴリー NT:準絶滅危惧

植物のなかま

海岸に生える植物は、波や風などから身を ・ 守るため、葉が厚く、地面をはうものが多いよ。

海):海の中にいるもの

波:流力ち際にいるもの





ハマエンドウ

砂

マメ科 (大きさ 100cm)



海岸などの砂地にはえる。茎はつるになって、巻き付く。種は水に浮く。花は紫色で4~7月頃に咲く。

ハマヒルガオ



ヒルガオ科 (大きさ 5cm)



海岸などの砂地にはえる。 茎はつるになっていて、巻き付く。 花はピンク色で5~6月頃に咲く。

ハマゴウ

植

物



クマツヅラ科 (大きさ 50cm)



海岸などの砂地にはえる。 幹は長く砂の中を横に這う。種は水に浮き、香りがある。 花は7~9月頃に咲く。

コウボウムギ



カヤツリグサ科 (大きさ 20cm)



海岸などの一般地にはえる。地下茎があり、幹は長く砂の中を横に造う。 花は4~6月頃に咲く。

オニシバ



イネ科 (大きさ 5cm)



海岸などの砂地にはえる。 茎は地面の 上を横に広がってはえる。 花は6~8月頃に咲く。

ハマユウ



ヒガンバナ^か (大きさ 100cm)



海岸などの砂地にはえる。 別名ハマオ モト。 営崎県の花に選ばれている。 葉が厚く、効复に白く大きな花が咲く

せいたいけい

がい らい せい ぶつ

生態系をおびやかす外来生物

exponsible さらし 自然界の生きもの同士のつながり、それによって作られる環境のまとまりな といいます。生きものたちは、長い年月をかけて環境に合わ しんか せて進化し、お互いにバランスを保ちながら暮らしてきました。

きんねん ほか はしょ も こ がいらいせいぶつ ていちゃく ところが近年、人が他の場所から持ち込んだ生きもの(外来生物)が定着し、

元々いた生きものたちを食べたりすみかを奪ったりしています。

avede かいがん がいらいせいぶつ ふ むかし ざいらいしゅ ぉ 宮崎海岸でも、外来生物が増え、昔からすんでいる生きもの(在来種)が追

いやられています。外来生物がこれ以上増えないように私たちが気を付け、

まも 宮崎海岸の生きものたちを守っていきましょう!

塩が定めた外来生物法では、特に影響が大きい外来種を「特定外来生物」に 指定し、取扱い(栽培・飼育や生きたままの移動など)を規制しています。

宮崎海岸でみられる特定外来生物

オオキンケイギク キク科 (高さ 30cm~70cm)



群生するオオキンケイギク(黄色い花)

キク科で大きさは $30 \sim 70$ cm くらい。道ばた、河川敷、海岸などにはえる。花は $5 \sim 7$ 月頃に咲く。宮崎海岸でも群落が見られる。

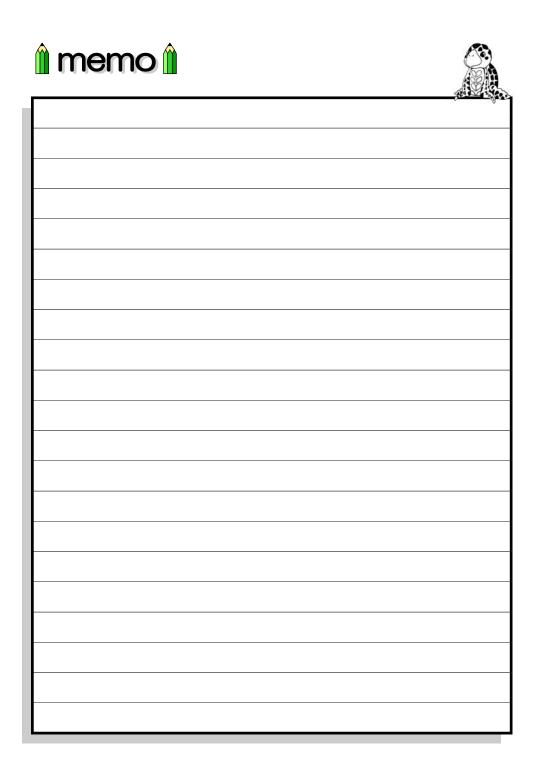
宮崎海岸でみられるその他の外来種



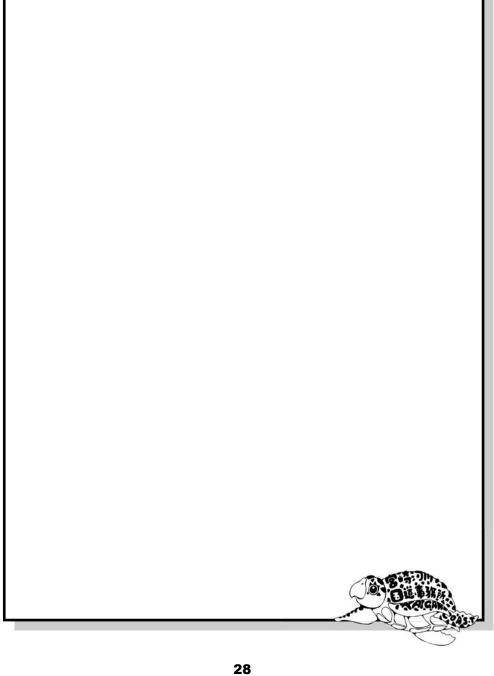
コマツヨイグサ アカバナ科 (大きさ 50cm)

北アメリカ原産。海岸などの砂地にはえる。 茎は地面の上を横にはう。 5~9月頃に黄色の花が咲く。

25







さくいん

	種名	分類	ページ
あ行	アオサギ	鳥類	19
	アオサのなかま	付着生物	18
	アカウミガメ	は虫類	24
	アジサシ	鳥類	21
	イシカワシラウオ	魚介類	14
	イソダンツウ	付着生物	18
	イソヒヨドリ	鳥類	21
	イボニシ	付着生物	17
	イワガキ	付着生物	17
	イワフジツボ	付着生物	18
	オオキンケイギク	植物	26
	オオニベ	魚介類	13
	オニシバ	植物	25
<u>か行</u>	カイノリ	付着生物	18
	カタクチイワシ	魚介類	13
	カメノテ	付着生物	17
	カルガモ	鳥類	19
	カワウ	鳥類	19
	キアシシギ	鳥類	20
	キクノハナガイ	付着生物	17
	キサゴ	魚介類	16
	キヌゲハキリバチ	昆虫類	23
	キバナガミズギワゴミムシ	昆虫類	23
	キュウシュウナミノコガイ	魚介類	16
	キンセンガニ	魚介類	15
	クロウシノシタ	魚介類	14
	クロズハマベゴミムシダマシ	昆虫類	23
	ケガキ	付着生物	17
	コアジサシ	鳥類	21,22
	コウボウムギ	植物	25
	コサギ	鳥類	19
	コタマガイ	魚介類	16
	コマツヨイグサ	植物	26
	コモンサカタザメ	魚介類	14
さ行	サガミハマアミ	魚介類	15
	サッパ	魚介類	13
	シロギス	魚介類	13
	シロチドリ	鳥類	20
	ジンドウイカ	魚介類	15
	スナガニ	魚介類	15
	セグロカモメ	鳥類	20
た行	チュウシャクシギ	鳥類	20
	ツメタガイ	魚介類	16

	ツバクロエイ トウネン トビ ネズミゴチ	魚介類 鳥類 鳥類 魚介類	14 20 21 13
は行	ハマエンドウ	植物	25
	ハマゴウ	植物	25
	ハマスズ	昆虫類	23
	ハマスナホリガニ	魚介類	15
	ハマヒルガオ	植物	25
	ハマベツチカメムシ	昆虫類	23
	ハマユウ	植物	25
	ハヤブサ	鳥類	21
	ハルゼミ	昆虫類	23
	ヒドリガモ	鳥類	19
	ヒメスナホリムシ	魚介類	15
	ヒメバカガイ	魚介類	16
	ヒラメ	魚介類	14
	フジノハナガイ	魚介類	16
	ベッコウガサガイ	付着生物	17
	ヘラヌメリ	魚介類	13
	ホウボウ	魚介類	14
ま行	マガモ	鳥類	19
	ミサゴ	鳥類	21
	ミユビシギ	鳥類	20

主な参考図書

文献名	著者	発行年
改訂・宮崎県版レッドデータブック宮崎県の保護上重要な野生植物	宮崎県	2020年
環境省レッドリスト	環境省	2022年
日本鳥類目録 改訂第7版	日本鳥学会	2012年
特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律	環境省	2005年
山溪カラー名鑑 「日本の海水魚」	岡村収、尼岡邦夫	1997年
写真でわかる 磯の生き物図鑑	今原幸光	2011年
原色検索日本海岸動物図鑑[Ⅱ]	西村三郎	1995年
日本近海産貝類図鑑 Marine Mollusks in Japan	奥谷喬司	2000年
日本の海藻 主要 284	田中次郎、中村庸夫	2004年
ポケット図鑑 日本の鳥 300	叶内拓哉	2005年
新訂 原色昆虫大図鑑 Ⅱ	森本桂	2007年
新訂 原色昆虫大図鑑 Ⅲ	平嶋義宏、森本桂	2008年
干潟の生きもの図鑑	三浦知之	2008年
宮崎海岸の侵食対策〜成り立ちと経緯〜	国土交通省宮崎河川 国道事務所	2014年
砂浜海岸の自然と保全	須田有輔	2017年